

国語科学習指導案

八尾市立八尾小学校

指導者 虎杖 睦宜

1. 日時 令和6年6月27日 第5時限 13:45～14:30
2. 場所 3年2組教室
3. 学年・組 第3学年2組（37名）
4. 単元名 「段落とその中心をとらえて読み、かんそうをつたえ合おう」
教材文：「こまを楽しむ」安藤 正樹（光村図書）

5. 単元目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・段落の役割について理解することができる。 【(1)カ】 ・全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。【(2)ア】	・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。【C 読むこと(1)ア】 ・目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。【C 読むこと(1)ウ】 ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。【C 読むこと(1)オ】	・言葉が持つよさに気づくとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

6. 本単元で取り組む言語活動

単元で学んだ説明文の書き方のコツを生かして、楽しさを伝えたい遊びについて、「〇〇を楽しむ」の説明文を書く。

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①. 段落の役割について理解している 【(1)カ】 ②. 全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 【(2)ア】	①. 「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。【C 読むこと(1)ア】 ②. 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。 【C 読むこと(1)ウ】	①. 進んで段落相互の関係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って、読んで考えたことを伝え合おうとしている。

8. 指導にあたって

(1) 児童観

本学級の児童は、第二学年において順序を表す言葉に着目しながら説明文を学習してきた。これまでに、第二学年で学んだ説明文は、「たんぽぽのちえ」、「どうぶつ園のじゅうい」、「馬のおもちゃの作り方」、「おにごっこ」の四つである。

「たんぽぽのちえ」では、文章を入れ替えると説明が成り立たないといった「順序」の大切さを学習してきた。言語活動では、「〇〇のちえ」を書き、それをもとに発表会を行った。

「どうぶつ園のじゅうい」では、動物園の獣医の1日の仕事について日記のように書かれており、時間的な順序を捉える学習をしてきた。言語活動では、「1番大変だと思う獣医さんの仕事」を選択し、自分の知識や経験を結びつけて理由を説明する活動を行った。

「馬のおもちゃの作り方」では、「まずは」「次に」や「一つ目は」など、順序を表す言葉を使って話したり、書いたりする活動にも取り組んできた。言語活動では、学習したことをもとに「〇〇の作り方」の説明書作りを行った。

「おにごっこ」では、筆者の書き方をもとに、「オリジナルおにごっこ」を協力して作り、プレゼンテーションする言語活動を行ってきた。

また、本学級の児童は、今年度に入り、教師の話の聞き方だけでなく、友だちの発言や会話の聞き方についても学習してきた。本学級の子どもたちは、「あ」相手をみて、「い」いい姿勢で、「う」うなずきながら、「え」笑顔で、「お」終わりまできくことを合言葉として授業に取り組んでいる。特に、「う」うなずきながら、「え」笑顔に関しては、友だちの考えに共感したり、違いに気づいたりしたときに、「なるほど」「そういうことか」などといった反応が自然と出ることで学びがより深まると考える。「こまを楽しむ」では、言語活動（学んだことを生かし、説明文を書く活動）を通して、この反応がたくさん出るような環境を整えていく。

(2) 教材観

本単元は、中学年最初の説明的文章であり、見開きで配置されている「文様」と「こまを楽しむ」の二教材で構成されている。

第一教材「文様」は、「こまを楽しむ」の練習教材という位置づけである。「段落」の意味と役割を知り、「初め」「中」「終わり」の文章構成を理解させるねらいがある。各段落の内容は、1段落は「問い」、2～4段落は「答え」とその言葉遊びの説明、そして5段落は「全体のまとめ」となっており、「一つの段落に一つのまとまりの内容が書かれている」ということが捉えやすい教材である。

第二教材の「こまを楽しむ」は、「文様」とほぼ同じ文章構成となっている。「こまを楽しむ」では、事例が六つに増え、二つの問いに対する答えがどちらも一文目に書かれている。また、8段落の「全体のまとめ」が、「文様」と同様に「このように」を用いてまとめられていること、「中」の事例と対応していることも押さえない。また、複数の事例を挙げていることから、言葉の説明だけでは特徴や他との違いが分かりにくいいため、補助的に写真を載せ、読者に伝わりやすいように工夫されている教材である。題名を考える活動や、最後の一文にある「さまざまな楽しみ方」から、それぞれのこまの何を楽しむのか、誰が楽しむのかなどを考えさせることでより子どもたちにとって深い学びにつながっていくと予想される。

この二つの教材は、事例列挙型の文章であり、同様の文章構成をもつ、「すがたを変える大豆」の学習につながっていくものである。本単元でも、事例の順序性に触れ、筆者の意図を推察していくことで、書き手としての意識を育てていくことができると考えられる。

(3) 指導観

本単元では、「遊びの楽しさが伝わるように『〇〇を楽しむ』の説明文を書く」ということを目標に、指導計画を作成した。

まずは、説明文の基本的な構造を知り、読みの構えをつくっていく。段落の意味や必要性について、実感を伴って理解させるために、第1次「文様」の段階で、意図的に段落を全て取り除いて一段落にした文章を配付し、教科書の本文と見比べさせる。どちらが読みやすいかを問いかけ、段落をつくることで、内容ごとのまとまりが見つけやすくなり、読みやすさにつながっていることに子どもたち自身で気づかせていく。そうすることで、段落は、筆者が読者に自分の主張を理解してもらうための工夫の一つであることを押さえる。また、問いに対する答えが書かれている場所についての規則性も、読みやすさにつながっていることに着目させていく。

第2次では、「こまを楽しむ」の構成を確認し、「楽しそうだ」と感じたこまを一つ選び、理由や根拠をもとに感想を書かせ、全体で交流する。筆者の文章から感じた「楽しさ」をもとに、これからどのような学習をしていきたいか全体で交流を行う。交流の中でできた子どもたちの意見をもとに問いをもたせ、今後の学習へとつなげる。

そして、問いに対する答えの例文(問いに対する答えがないものや、答えが最後に書かれているもの、楽しみ方がないもの、ネガティブな書きぶりのもの、他との比較がないもの、人々の思いが書かれていないもの)を教師が用意し、本文とどちらの方が楽しさが伝わるかを比較しながら、文章の書き方のコツを考えさせていく。さらに、最後の一文に「文様」と同様「あなたも、こまを楽しんでみましょう。」があると、どのような印象になるのか、締めくくりの表現にも着目させたい。

第3次では、それまでに学んだことを生かし、説明文を書く活動を行う。お互いの書きぶりを比較しやすいように「折り紙」「トランプ」「すごろく」の三つの遊びから一つに絞って考えさせる。昔から続く遊びであり、かつ雨の日に学級でも楽しめる馴染みのある遊びを選んだ。考えの形成を促すために、「こまを楽しむ」の本文の書き方をそのまま模倣するのではなく、学んだコツを生かし、自らの体験や思いも入れながら表現させていく。

9. 単元の指導と評価の計画(全10時間) ◎…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

次	時	主な学習活動	知技	思判表	主体	評価規準・評価方法
1	1	・「文様」を読み「段落」の役割と「初め」「中」「終わり」の構成について知る。	○		○	「段落」の意味と役割について理解している。(発言)【知】
		・「問い」と「答え」に着目して、「文様」の各段落内容を読む。		○	○	「初め」「中」「終わり」の文章構成とその捉え方について理解している。(発言)【思・判・表】
		・「終わり」に筆者が伝えたかったことが書かれていることに気づかせる。	○		○	

	2	・一番気に入った文様とその理由を書き、交流する。		○	◎	文章の内容に興味をもち、単元の目標や学習の流れを確認して、学習の見通しをもっている。（観察・記述・発言）【態】 [思考・判断・表現②] <u>ノート</u> 自分が気に入った文様について、理由やそれに対する思いを、本文の語や文から導いていることの確認。
2	3	・「こまを楽しむ」を通読する。 「楽しそうだ」と感じたこまを一つ選び、理由や根拠をもとに初発の感想を書く。 ・段落と二つの「問い」を見つけ、「初め」「中」「終わり」の文章構成に分ける。 ・「終わり」に筆者が伝えたかったことが書かれていることに気づかせる。	○	○	○	それぞれの段落や文章全体の中心となる言葉や文があることを理解している。（記述・発言）【知】 [知識・技能②] <u>ノート</u> 本文の内容を読み取り、そこから自分が「楽しそうだ」と感じる点を書けていることの確認。 段落相互の関係に着目し、文章の内容と構成を理解している。（発言）【思C】 段落の中心となる言葉や文を捉えている（発言）【思C】
	4	・初発の感想をもとに、一番楽しそうなこまのランキング表を作る。		○	○	交流の中で、互いの感じ方や考え方の違いについて気づいている。（発言）【思C】 [主体的に学習に取り組む態度①] <u>観察</u> 友だちの意見から、それぞれのこまのとくちょうや楽しさに気付いていることの確認。

	5 6 7 本時	・ 筆者の文章から感じた「楽しさ」をもとに、これからどのような学習をしていきたいか交流する。 <問い> 「なぜ、楽しさがつたわってきたのだろうか？」		○	◎	進んで段落相互の関係に着目し、文章の内容を捉えようとしている。（観察・記述・発言）【態】
	8	・ 教師の文章と筆者の文章を比べどちらがわかりやすいか比較する。 ・ 楽しさが伝わる書き方のコツを見つけ、まとめる。 ・ 「中」の事例の順序と「終わり」の締めくくりの表現、題名に込められた意味について考える。		○	○	交流して、互いの感じ方や考え方の違いについて気づいている。（発言）【思C】 積極的に説明される内容とそれを支える事例の関係に着目し、筆者の説明のしかたの工夫を見つけようとしている。（発言・記述）【態】 [思考・判断・表現①] <u>ワークシート</u> 筆者の書きぶりのどこがコツになるかをエラーモデルと比較しながら、考えられていることの確認。
3	9 10	・ 三つの遊びを想起させ、「○○を楽しむ」の説明文を書く。（折り紙・トランプ・すごろく） ・ 発表し、それぞれの書き方のよさを交流する。	◎	◎	○	積極的に事例の書き表し方を工夫し、○○の楽しみ方について説明する文章を書こうとしている。（発言・記述）【態】【知】 [知識・技能①] <u>ノート</u> 筆者から学んだコツや段落の役割を利用して、遊びの楽しさを伝える文章が書けていることの確認。 交流して、互いの感じ方や考え方の違いについて気づいている。（発言）【思C】

10. 本時の展開

(1) 本時の目標(6/10時間目)

- ・二つの文章を比較し、事例の効果的な書き方について、考えたことを共有することができる。

【思考・判断・表現】

(2) 本時の評価規準

- ・教師の文章と筆者の文章を比べどちらがわかりやすいか比較し、書き方のコツをまとめようとしている。

(3) 展開

主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1, めあてを確認する。 三年生の先生 VS 筆者、どちらの文章 がいいか比べよう。 ～中級編(きみたちはできるかな?)～ 2, 鳴りごま(3段落)について、教師が作成した文(A)と本文(B)を比較する。比較した後、どちらの文章がよかったか一人で考え、その理由をワークシートに書く。 3, 理由をもとに、書き方のコツをグループで考え、ワークシートにまとめる。 4, よかったところ(コツ)を紹介しよう。 5, さか立ちごま(4段落)について、教師が作成した文(A)と本文(B)を比較する。比較した後、どちらの文章がよかったか一人で考え、その理由をワークシートに書く。 6, 理由をもとに、書き方のコツをグループで考え、ワークシートにまとめる。 7, よかったところ(コツ)を紹介しよう。 8, コツ表に授業で学んだコツをまとめる。	・前時のふりかえりを行った後、めあてを伝える。 ・教師が作成した文と本文と比較して、伝わりにくい点を見つけて線を引かせたり、言葉を書き込ませたりしながら、楽しさが伝わる書き方について考えさせる。 ・グループで出た考えをワークシートに書き方のコツをまとめさせる。 ・全体でよかったところを共有する。 ・教師が作成した文と本文と比較して、伝わりにくい点を見つけて線を引かせたり、言葉を書き込ませたりしながら、楽しさが伝わる書き方について考えさせる。 ・グループで出た考えをワークシートに書き方のコツをまとめさせる。 ・全体でよかったところを共有する。 ・コツ表にまとめさせる。	【思考・判断・表現①】 ワークシート 筆者の書きぶりのどこがコツになるかをエラーモデルと比較しながら、考えられているかの確認。 【思・判・表】 自分の考えをグループに共有することができる。(記述・発言) 【思・判・表】 グループの考えをクラス全体に共有することができる。(記述・発言) 【思・判・表】 自分の考えをグループに共有することができる。(記述・発言) 【思・判・表】 グループの考えをクラス全体に共有することができる。(記述・発言) 【思・判・表】

(4)本時における具体的な児童の状況(※本時の評価規準に関わる場面において)

おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
下記の①と③、または②と③を行っている。 ①自分一人で解釈している。 ②友だち(他者)に解釈を求めている。 ③ノートに解釈を書いている。	教師側から選択肢を与え、自分の考えを表現することができるようにする。また、友だちの考えを聞いてよかった内容をヒントに自分の考えを表現できるように促す。